

DE&I、クリエイティブシティ そのイノベーション

博報堂／UNIVERSITY of CREATIVITYのロビーサー

本橋彩
もとはし あや



「すべてのニンゲンは生まれながらにして創造的である」

「UNIVERSITY of CREATIVITY」(主宰：市未健太郎。以下、UoC)は、未来創造の技術としてのクリエイティブティを研究開発し、社会実験していく場として2020年9月に「開港」しました。UoCは、社会でAI、IoT、ビッグデータが急速に普及する今こそ、創造性を人類最大の資本として捉え直し、新しい文明の地図を描くための「クリエイティブティの港」となることを目指しています。文理芸や産学官の壁を超えて多様な創造性の研究と実験の掛け算を生み出すことで、世界の課題解決や新しい感動の源泉発掘につなげたいと考えています。UoCの理念は「We are ALL born Creative.——すべてのニンゲンは生まれながらにして創造的である」です。年齢や職業を問わず、すべての人に開かれた創発プラットフォームです。

私はダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(以下、DE&I)をテーマに、一人ひとりの個性、属性、感性をありのままに活かすことで、社会全体の豊かさを増進することができるとは思いませんかと考えて、哲学者、シェフ、医学者、データサイエンティスト、工学者、経済学者、社会学者、起業家、企業家、教師、欄宜、アーティスト、建築家、居酒屋店主、エンジニア、記者、LGBTQ+、政治家、学生、子ども、デザイナー、社会活動家、テレビ番組プロデューサーなど、様々な方々と対話させていただきながら、研究と社会実装を進めています。

イノベーションを起こすために 必要な創造性

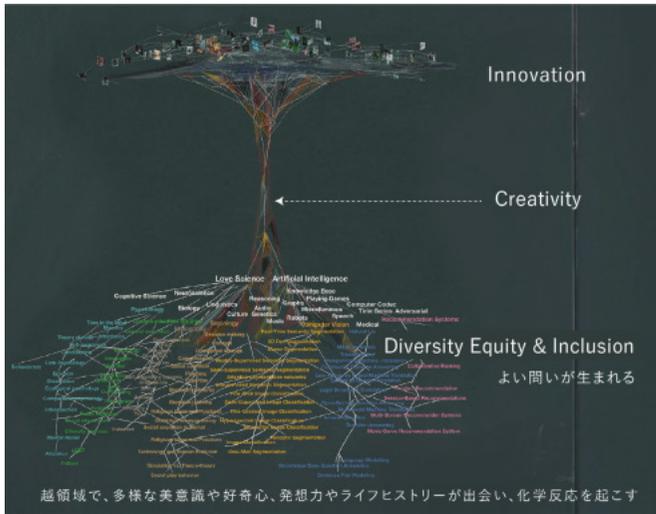
「創造性」とはなんでしょか。UoCではその研究を進めています。創造性の定義は1つではなく、いろいろな捉え方があります。

私がいろいろな方々と話す中で、多く挙げられたのが「創造性はワクワクする新しい組み合わせを見つける力」でした。経済学者のヨージェフ・シュンペーターがイノベーションを「新結合」と表現しましたが、創造性は私達の想像を超える「まさか」なイノベーションを生むために必要な力といえます。

では、どうしたら創造性を発揮できるのでしょうか。研究を進めていく中で「良い問い」が創造性の源泉の1つなのではないかと考え始めています。「良い問い」とは、自分の内側から込み上げてくる内発的な問いです。そして、良い問い自体が、新たな視点やアイデアを見つけて、また新たな問いを生んでいく、ずっと探求し続けられる、イノベーションにつながる問いの連続なのです。近年注目されている、内発的な探求プロセスを大切にするとアートシンキングにも通じるものがあります。

企業におけるジェンダー・ダイバーシティ —リーダーの本気度を問う

UoC System — 越領域から良い問い、創造性が生まれ、「まさか」なイノベーションが生まれる



UoC Mandala (対話をする場所)

さらに個人の生き方そのものが、個人の自由な発言と態度によって縦横無尽に交わり、溶け合うプロセスがあるからです。そして、私がDE&Iが

創造性の発揮につながる、
良い問いを生むための土壌が、DE&I

「良い問い」を生むために、大事になってくるのがDE&Iです。DE&Iとは、外的属性(性別、年齢、国籍、障がいなど)や内的属性(ライフスタイル、職歴、宗教など)の違いを尊重することです。つまり個性の違いを尊重するということが大切になります。私の研究ではDE&Iを大切にしながら、さらに「越領域」であることを意識しています。越領域という場が集まるのは、いわゆる職業の専門性だけでなく、一人ひとりの

美意識や好奇心、発想力、ライフストーリーでもあります。またプロフェッショナルだけではなく、ピュアなアマチュア性も集まります。哲学者、シェフ：子どもまで、いろいろな人がやってきます。私は、いつも多様な生き方が集まっているのを感じています。越領域の出会いから生まれる化学反応が、本当に面白いのです。ゴールをあえて設定せずに最初の問いから始まるのですが、一人ひとりの専門性や生き方からの視点、美意識や好奇心、発想力がぶつかり合い、話は想定された方向に全く向かわず、次々に予想を超えたワクワクする新たな視座、世界が開けていきます。良い出会いは、「良い問い」の連鎖を生んでいくプロセスが、まさに私の目の前で起こります。

越領域は、DE&Iからさらに一歩踏み込んだ位置付けになるのかもしれないと私は感じています。そこには、DE&Iの理念を満たしたうえで、

越領域の場をつくるときに大切にしているのが「共感」です。相手の話をよく聞いてその背景やストーリーを理解しようと努力し、自分と相手との違いを冷静に理解して認める、理性的な共感です。共感を大切に行っている土壌では、安心して自分らしくいられ、お互いの違いを受け入れることができ、「良い問い」が生まれる可能性の先に、創造性が発揮される機会が増えているのを感じています。

越領域から「良い問い」、
創造性が生まれ、「まさか」な
イノベーションが生まれる

DE&Iは、企業や社会の目的ではなく、一人ひとりの個性をありのままに活かして、より良い人生、より良い未来を創るための大切な手段です。それぞれの企業内での取り組みは、しっかりと行われるべきですが、ここで紹介した「越領域」のような、一歩踏み込んだDE&Iの場づくりは、1つの企業の中では機会が少ないかもしれません。

UoCは、自分達の創造性でより良い未来を創りたいと思う人々が、いつも越領域で集まっている場所です。皆さんの創造性を刺激する、多様な美意識や好奇心、発想力に出会い、UoCにいらしてください。皆さんとUoC、そして皆さん同士の越領域から、どんな問いが生まれるのか、とても楽しみです。

(注)UoC: UNIVERSITY of CREATIVITY 港区赤坂5-3-1,
<https://uocworld.jp/>